

1 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

- 児童について
 - ・児童は全般的に落ち着いた学校生活を送っている。明るく素直で気持ちの優しい子どもが多い。比較的挨拶ができ、係や当番の活動に熱心に取り組む。
 - ・基礎学力の定着に課題のある児童がいる。授業改善及び放課後の補習時間の確保が課題である。
- 教師について
 - ・学級担任9名中5名が20代、専科・特別支援教室を含めると本校を初任校とする教員が7名いる。活力はあるが未熟さは否めない。
 - ・経験の浅い教員が多く、授業力において十分とは言えない状況がある。学校運営においても前例を踏襲することで精一杯で、新しいことにチャレンジできない様子がある。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 学力向上（基礎・基本確かな定着）**

- 区学力調査の到達度、通過率の向上を図る。会議を精選し放課後の補習学習の時間を確保する。
- 小中連携を図り、校内での研究授業を4回実施する。校内でテーマを決め、講師を招いて研究授業をする。
- 若手教師育成組織「いちよう塾」の充実・改善を図る。年間29回研修会と7回の授業研究を実施する。

重点的な取組事項－2 安全・健全文化の創造（生命の尊重・人権の擁護・豊かな感性の涵養）

- 毎朝、校長が挨拶指導を兼ねての学校周辺の安全点検を実施。生活指導部を中心に放課後の地域巡回。
- 「人の嫌がることをしない、言わない」の徹底を図り、いじめの把握と防止に努める。
- アレルギー対応訓練等を行い、アレルギー事故0を目指す。

重点的な取組事項－3 心身の健康の保持・増進（意欲と自信をもたせる。体力の向上）

- オリンピック・パラリンピック教育を推進し、様々な体験活動を実施し、心身の健康の保持・増進に努める。
- 校内の教育活動の有効活用を図る。（春の運動会、夏の水泳記録会、秋のマラソン大会、冬の縄跳びなど）
- 食育を推進し、栄養指導を含めた生活習慣指導を実施する。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 学力向上（基礎・基本確かな定着）**

- 区学力調査の結果、学校全体の通過率は国語1.2ポイント低下、算数1.1ポイント向上した。（正答率は国語で2.1ポイント低下、算数で1.3ポイント向上した。）特に6年生の定着率が低く、全校に影響している。個別指導による基礎・基本の定着と若手教員の授業力向上が喫緊の課題である。
- 観点別に見ると、国語では読む能力、算数では数学的な考え方に課題が見られる。全ての学習において基本となる「読む能力」の低さが目立つ。一方、基礎的事項についても定着の度合いに差がある。授業力の向上を図りつつ、くり返しによる基礎・基本の確実な習得が必要である。読書活動にも力を入れていく。

重点的な取組事項－2 安全・健全文化の創造（生命の尊重・人権の擁護・豊かな感性の涵養）

- 重大ないじめと認定される事案は発生しなかった。毎週の生活指導朝会での情報共有を行いながらスクールカウンセラーによる4年生以上の全員面談を行うなど、相談活動を充実させ児童の変化を見逃さないよう努めた。関係機関との連携も積極的に図っている。次年度においても継続していく。

重点的な取組事項－3 心身の健康の保持・増進（意欲と自信をもたせる。体力の向上）

- 食育の一環として栄養士による給食指導を実施した。給食の残菜率は1.3%。
- 校内の体育的行事には何においても熱心に取り組んだ。より多くの運動経験を積ませることが課題である。
- 投力については、全ての学年が区・都の平均を上回った。次年度も継続して取り組んでいく。
- 年間を通してのなわとびタイムにも児童は意欲的に取り組んでいる。
- 保護者・関係機関と連携を図ったことで不登校児童が登校する回数が増えてきたが、解消には至らなかった。次年度への継続課題である。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

基礎学力の定着には分かる授業と反復学習が不可欠である。小中連携による4回の研究授業、講師を招いての3回の校内研究授業、若手研による7回の校内研究授業、25回の若手研修会など教員の研修を充実させ、教員の資質・能力、授業力の向上をめざし取り組んできた。また朝学習や放課後学習の改善を図った。様々な学校行事を通して、協力すること、やればできるという自信をもたせるように努めてきた。これからも家庭・地域と連携し、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成に努めたい。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
◎区調査において全学年で平均が国語・算数とも目標値を超える。	・(全校平均で)国語80%、算数80%	・通過率で見ると全校平均で国語71.7%、算数78.4%で80%に届かなかった。 ・国語、算数とも区平均を下回った。	・どの学年も平均は目標値を上回った。通過率は前年度比で国語が1.2%低下し、算数が1.0%前年を上回った。学年差と学力の二極化が課題である	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○朝学習(パワーアップタイム)	・ミニテストで学級の8割の児童が80%以上の結果を出す。	・朝学習は毎週火(国語)・水(算数)・金(図書)に15分設定。漢字・計算のプリント学習(てんまるを基本とする)	・ミニテストでは、国語・算数とも80%以上(国語87%算数89%)の正答率を得られた。	・職員朝会を短時間で終わらせるなどの工夫がさらに必要。	○
○放課後学習	・1月に実施する定着確認テストで80%以上の児童が目標値を通過する。	・月曜3・5年 火曜4・6(1)年 木曜4・5年 金曜2・3年 担任、非常勤教員、学習支援員、校長、副校長による。 復習を中心に個別・少人数指導とする	・取り組み自体は計画的に実施できたが、正答率は国語77.5%算数72.0%であった。	・方法をさらに改善し、管理職を含め全ての職員で多くの児童が個別指導を受けられるようにした。算数の定着に課題がある。	●
○夏季学習教室	・最終回のテストで正答率10%アップ	・全10日間 3～5年生。 国語・算数で正答率70%以下の児童を中心に各クラス5～6名。 全教員(各会3人体制) つまづきに応じて指導を行う。	・最終回のふりかえりテストでは、8%アップであった。多くの児童は成績が向上したが、一部変化の見られない児童もいた。	・参加した児童は意欲的に取り組んでいた。回が進むにつれ参加者が減る傾向にあり、課題といえる。	△
○クラブ・委員会の時間を活用した放課後学習	・かけ算九九、くり上がり・くり下がりの計算が確実にできるようにする。簡単な文章を正しく読めるようにする。	・クラブ・委員会のある水曜日(年間20回程度) 2・3年各4～6名 国語・算数 校長・副校長、非常勤教員による 特に学力定着に課題のある児童に対し、基礎的事項の習熟を図る。	・かけ算九九、くり上がり、くり下がりについては、多くの児童が身に付けることができた。文章理解・言語理解については、個人差が大きい。	・各回とも児童は熱心に参加した。確実に身に付けるためには、より多くの回数を確保したい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○教師の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・同学年異学級の通過率の差を国語・算数ともに10ポイント以内とする。 ・1月に実施する定着確認テストで80%以上の児童が目標値を通過する。 	<p>【いちょう塾】 7年目までの教員対象年間計画により実施。毎週の研修会は、授業に関すること、生活指導に関すること、含む・勤務に関すること等とする。</p> <p>【小中連携】 分科会ごとに研究授業・協議。必要に応じて外部から講師を招聘する。</p> <p>【校内研究】 算数にて外部から講師を招き、指導を受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通過率の学級差が大きく学年によって15ポイント以上の差が見られた。 ・いちょう塾の研究授業は各回実施できた。 ・小中連携研修の分科会ごとの研究はより活発な議論が交わされるなど。昨年に比べ深まりが見られる。 ・外部から講師を招いて指導を受ける機会は大変貴重である。授業者からもやってくれたとの声が聞かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いちょう塾は概ね予定通り実施した。実技研を多くし、より具体的な内容にしたい。 ・小中連携の計画を主として作成した。分科会方式も軌道に乗り、中身の濃い研究が進みつつある。 ・講師に指導を受けることで、教材に真摯に向き合うようになった。 	△

重点的な取組事項－2 安全文化の創造（生命の尊重・人権の擁護・豊かな感性の涵養）

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
○全児童が健康に、安全で充実した学校生活を送ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価アンケート」健康・安全に関する設問で90%以上の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康・安全面から見て健全に育っている」の肯定的評価は93.5% ・いじめの認知に努めた結果、軽微なものが増えたが、重大な事案はなかった。不登校児童2名は登校できる日が出てきた。他の1名は、体調次第。継続的な取り組みが必要もいる。 ・食物アレルギー事故はなし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院はなかったが、体育指導中の骨折が2件発生した。 ・不登校は担任、管理職、SC等で保護者対応などに努めた。もうひと段階進めたい。 ・栄養士と担任が注意深く連携・実施した結果誤食事故は発生しなかった。 	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○安全点検の改善と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の不備が原因となる児童の怪我を発生させない。 ・アレルギー事故ゼロ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回全教職員で安全点検を実施。 ・毎週金曜日に生活指導朝会を行い情報の共有化を図る。 ・養護教諭・栄養士を中心に、全教職員でアレルギー対応訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検により大きな怪我は発生しなかった。放課後の地域巡回を強化した。 ・アレルギー事故発生時の役割等を確認。未然防止のための確認ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進んでいる。こまめに点検を重ねていく。 ・アレルギー対応に引き続き力を入れていく。 	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○思いやりの心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「児童は学校に楽しく通っている」の肯定的回答 90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、校長によるあいさつ指導を実施。 地域の象徴である五色桜の授業を通し生命・自然・郷土を愛する気持ちを育てる。 いじめ防止・対処授業の実施。 いじめのアンケートの実施 個々の課題を共有するために、4年生以上SCによる全員面接を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「児童は楽しく学校に通っている」の肯定的評価は95.0%。 GTを招き、3・4年生で郷土学習を実施。地域への興味・関心につながった。 いじめ防止の授業、アンケート等により、重大ないじめには至らなかった。 面接を行い、課題把握に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心と学力は車の両輪であると考え、来年度も尽力する。 いじめの把握、早期対応をさらに進めていく。 	○

重点的な取組事項－3 心身の健康の保持・増進（意欲と自信をもたせる。体力の向上）

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
◎児童が毎日元気に登校し、活気に満ちた学校生活を送り自己肯定感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 不登校を解消させる。 年間の無遅刻・無欠席児童を30%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校0は達成できなかったが、登校できる日が増えている。 年間の無遅刻無欠席は25.6%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も保護者と連携し、SCや関係機関の協力を仰ぎ、不登校0を目指す。 欠席率についてはやむを得ない部分もある。特定の児童の遅刻が多いので、家庭への働きかけなど取り組みが必要。 	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保健室来室児童を1日当たり2人以下（怪我）、1.5人以下（疾病）とする。 各学年でオリンピック・パラリンピック競技に関連した運動に取り組む。 不登校児童をゼロとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭による講話や学級での指導により、怪我を未然に防ぐとともに、保健室に行く必要があるか否かの判断ができるようにする。 オリンピック・パラリンピック教育を通して、生涯にわたって運動を楽しもうとする。 SCや外部機関と連携し、不登校児童への面談、家庭訪問を毎月行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室来室児童は1日あたり4.1人。低い水準を保っている。特定の児童がくり返し来室している様子がある。 オリンピックははじめ講師を招いての活動は充実していた。日々の授業実践をより進めたい。 様々な人材を活用してアプローチを重ねたが、解消には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 怪我や疾病の対応等で、判断に迷うことがあった。最悪の事態を想定して対応していく。 不登校対策については、継続して、組織的に取り組んでいく。 	○
○食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士による栄養指導を全学年2回以上実施。 給食残菜率2%を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食指導時に栄養士が教室に入り直接指導する。 もりもり給食ウィーク、お箸ウィーク、オリンピックパラリンピック給食等を活用し、食に対する関心を高め感謝する心を培 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士のみならず担任の努力もあり残菜率は1.3%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の皮むきや給食メニューコンクールなど、栄養士と児童とのかかわりが密になった。 今後も継続し 	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
		う。		て低残菜率を維持する。	
○基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果を向上させる。 ・投力を4月時から10%向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の体育の授業の改善・充実及び各種体育的行事への取り組みを充実させる。 ・なわとびタイム（毎週）、マラソンタイム（冬季）を実施し、運動習慣を身に付けるとともに体力向上に資する。 ・チャレンジ週間（10日間）を設定し、多様な運動に挑戦できる機会とする。 ・投力向上週間を設定し（5月、10月）、投力に特化した運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なわとびタイムを継続したことで、各学級の記録が向上し、意欲につながっている。マラソンにも意欲的に取り組むことができた。 ・体力調査では全種目の目標達成は成らなかったが、各運動は計画的に実施することができた。 ・投力については、区・都の平均を上回っている。4月との比較では・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上を大きな課題ととらえ、来年度も継続して取り組んでいく。投力を中心に具体的な目標を定める必要がある。 	△

3. 学校活動全般について

<p>◎年間を通して全体としては落ち着いた学校生活を送ることができた。保護者も地域も学校には協力的であった。一部児童の放課後の生活のしかたによって、地域住民から注意を受けることがあった。意思統一を図り、同じ目線で指導し、善悪の判断ができるようにしていきたい。</p> <p>◎重点課題の学力に関しては、まだまだ向上させられる余地がある。授業力向上が学力調査の結果にも反映されることを踏まえ、OJTを推進しつつ若手教師をはじめ各教員の資質・能力の向上を図っていく。</p> <p>◎基礎・基本の定着が最重要課題であることは間違いないが、創意工夫を凝らして児童が考えながら取り組めるようなクリエイティブな学習活動・探究的な学習活動を創出していきたい。</p> <p>◎統合に関する話が区より新たに示されたことに伴い、入学児童の減少が加速している。安定した学校運営をするためにも、多くの児童が入学するよう働きかけをしていく。また、今いる児童のためにできることを精一杯取り組んでいく。</p>
--